

2015年度事業計画

学校法人 東洋英和女学院

当学院は、キリスト教（プロテスタント）の信仰と聖書の教えに基づいて、建学の精神である「敬神奉仕」に沿った人間形成を重んじる学校教育を行っています。

昨年は、カナダ・メソジスト教会から派遣された婦人宣教師マーサ・J・カートメルにより当学院が創設されて130年目を迎え、学院全体が一つとなってこれまでの歩みを振り返りつつ、将来を展望する節目の年となりました。2015年度はこうした基盤のうえに立ち、幼稚園から大学に至る総合学園としての一貫教育という特色を更に活かしていくため、教育指導面の一段の充実を図るとともに、各部間の連携を一層強化し、努力を続けてまいります。

各部ごとの2015年度事業計画は以下のとおりです。

1. 各部の教学計画

(大学・大学院)

《大学》

カリキュラム内容の充実をはかるため、本学が志向するリベラルアーツの理念および具体的科目構成を見直し、学生の自己啓発力涵養に資するプログラムの構築を目指す。

専門教育とりわけゼミ指導の実質化を念頭に、学科単位およびゼミ単位でプロジェクトに基盤を置いた教育（Project Based Learning）を推進する。これに関連して、教育環境のより効率的な整備をはかる。

大学全体の知識・情報基盤の統合的運用を実現するため、意思形成および決定のための指揮・統制・相互連絡・情報活用を主務とする IR (Institutional Research) 室を設置し、学長指導力の強化に努める。

図書館をはじめ、生涯学習センター、キャリアセンター、学習サポートセンター、総合実習センター、国際交流センターなど、多様な付置機関の相互補完性を強化する。加えて、高等部・大学及び大学院が一体となった連携関係の構築・拡充を試みる。

《大学院》

前年度に引き続き、専門職社会人のリカレント教育及び生涯教育カリキュラムの充実をはかり、応募者・入学者の増勢に努力する。2016年度より

専攻として独立する人間科学研究科臨床心理学領域の円滑な運営に努め、同領域と人間科学専攻との間の協働を志向する。同時に、国際協力研究科においては学外ネットワークの拡充・増強をはかりつつ、より実践的な専門研究教育の実現を目指す。

(中学部・高等部)

日々の礼拝や修養会などの諸行事を通じて、学院に受け継がれてきたキリスト教教育を継続するとともに、建学の精神である「敬神奉仕」の継承を図る。

中学部、高等部ともに各教科とも、シラバスに基づき質の高い授業を推進しつつ、講義型授業ばかりでなく、生徒が主体的に学ぶ探求型、発信型授業形態を取り入れるべく研究実践を進める。英語では、国際社会で通用する英語力として自分の考えや想いを発信できるライティングやスピーチの能力育成を図り、またすでに昨年度より中学1年生で開始している自ら読み進めていく多読プログラムを中学2年生にも広げていく。

S G H (スーパー・グローバル・ハイスクール) アソシエイト校として、昨年度より開始しているグローバル教育を強化する。バングラデシュやミャンマーについて学ぶことを通して、奉仕の精神をもつグローバルリーダーの育成を図る。また従来の夏期カナダ語学研修、春期アメリカ語学研修に加え、昨年度から開始した1月から3月のカナダ、アメリカ、オーストラリアの協力校との短期留学の充実を図る。

クラブ活動必修制を維持し、心身の健全な成長を促すとともに、学校行事や野尻キャンプサイトでの夏期行事などを通して生徒の自主的な活動を育成する。ピアノ科をはじめとする課外教室の充実にも努める。夏の修養会は、東日本大震災から時経ても原発事故の影響下にあり外遊びもままならない保育園園児を軽井沢追分寮に招き、共に過ごす時とする。

小学部、大学との連携を強め、より充実した一貫教育の中での人間教育を押し進める。

(小学部)

小学部におけるすべての活動が、「敬神奉仕」の具現化を目指すものであることに努め、私学ならではの特性を生かした、より専門性と質の高い教育を継続して提供する。

特に「ICT (情報通信技術) を活用した学びの実現に向けて」を重点目標として、21世紀を生きる子どもたちにふさわしい学びの研究と実践に努める。さらに3年生の英語授業を週2時間に増やし(1、2年生週1時間、3年生以上週2時間)、伝統的に特色ある英語教育、国際教育のこれまで以上の充実を図る。また小学部の特長である、特別活動や諸行事への子どもた

ちの生き生きとした取り組みを全力で支える。

同時に有志によるプロジェクトチームを立ち上げ、未来の小学部の教育を創り上げる長期将来計画の検討・立案を積極的に進める。

(東洋英和幼稚園)

「敬神奉仕」の精神を具現化するため、保育者は神から愛されていることを感謝して保育にあたり、愛をもって園児や保護者に向き合う。周囲の人々や神から愛されていることの実感を園児が持てるよう関わる。

アジアキリスト教教育基金を通じたバングラデシュの子どもたちや寺子屋学校への支援をさらに深める。

外部講師を招いてのキリスト教保育をテーマとした園内研修を継続し、保育の質の向上に努める。

幼稚園設立100周年を記念した冊子を発行する。学院創立130周年記念行事への参加を通して深まった保護者等関係者の当学院への関心の高まりが持続するよう、学院全体・各部の情報を積極的に発信する。

(大学付属かえで幼稚園)

地域に根ざすキリスト教幼稚園としての役割を問いながら、ゆたかな遊びと生活を支える質の高い保育をめざす。保護者と共に歩む保育に一層努力し、子どもたちの安心を守り、希望を育む。

大学の付属園として、大学と連携し学び合い、保育者の養成に寄与する。

学院、大学とともに、「東洋英和のキリスト教保育」と「かえで幼稚園の今後」を考えていく。

横浜市幼稚園協会、横浜市こども青少年局との連携を計り、地域での子育て支援に関与する。

2. 各部の環境整備計画

(大学)

教職員のパソコンが老朽化しているため入替を実施し、各教室に配置されているパソコンも同一の機種に統一してICT環境の整備をする。昨年度に引き続き劣化した空調機のオーバーホールを行い、省エネを推進する。図書館についても広範な機器改修、省エネ工事を実施する。

(中学部・高等部)

教育環境のより一層の充実を図るため、PC教室の設備更新・LAN配線整備のほか、教育用電子機器の購入・PCの更新などにより、ICT関連設備機器の整備を推進する。教務データの刷新をはかり、能率よく教務事務が

行えるようにする。

校舎正門からの景観をより良いものにするため、緑化整備を図る。校舎壁面やグラウンドの劣化補修工事を行う。

野尻キャンプサイトの安全面の強化を図るためプールを移設し、斜面を改良工事し、さらに自然環境に配慮しながら緑化を図る。

(小学部)

ホームページの小学部サイトを全面的に一新し、きめ細かい情報提供による小学部教育の外部への発信を充実させる。

放送設備の改修、学校給食用厨房機器の交換等により、快適な教育環境の提供を目指す。

(東洋英和幼稚園)

今年度より、女児3歳児保育の開始に伴い園児定員が30名増え130名となるため、園児の動線を踏まえ、事故や怪我のないよう保育環境の整備に努める。とくに園庭の整備を重点的に行う。

自動火災報知機を更新し、危機管理体制を充実させる。

(大学付属かえで幼稚園)

安全と衛生と健康に配慮し、一部保育室の空調エアコン設置工事や便所補修工事等を実施する。

3. 管理運営計画

当学院各部門が社会の要請に対応してその使命を果たしていくため、管理運営面では以下の課題に重点を置き取組んでいく。

- ・六本木五丁目西地区市街地再開発について、再開発準備組合との折衝にあたりるとともに、学院内外の関係者との連携のもと検討作業を推進する。
- ・教職員が一段の能力向上を図り、働き甲斐を感じることが出来るよう、良好な執務環境の確保にあたる。また社会全般の雇用状況を踏まえつつ、給与処遇制度の改善を検討する。
- ・法令、規程に基づき適正に事務を遂行し、とくに補助金、科学研究費など公的資金を財源とする研究費について、法令等に基づき適切な管理運用を図るため、新たに設けられた監査体制を適切に運営する。

- ・取引先との既往契約を合理性・効率性の観点から見直し、大口契約を中心に競争見積り合せを実施することにより、予算の適正かつ効率的な執行を図る。
- ・安全性と収益性の両面に配慮した資産運用を行ない、当学院の将来計画を視野に入れつつ財務基盤の充実を引続き図る。
- ・当学院への重要史料寄贈を契機として、保有史料を活用した展示施設を拡充するとともに、保存活動を進める。日常の広報活動や東洋英和楓の会の運営を通じ、全ての学院関係者と学院との連携を引続き強化する。また、東日本大震災の被災地支援に引続き取り組む。

以 上